

## 第72回春季東北地区高等学校野球宮城県大会

準々決勝	仙台市民球場	1 時間 44 分	打安点盗犠四三残失併
仙 台 城 南	0 0 0 0 0 0	0 0	【城】 26 2 0 0 1 12 3 1 0
仙 台 育 英	4 0 0 0 1 0	0 2X	【育】 29 9 6 1 0 3 3 4 1 0
( 8回コールド )			
(球) 山下 大輔 (一) 森山 宏則 (二) 新野 祥平 (三) 鶴田 代志昭			▽本塁打 和賀, 高田(育)
【城】 笠松, 高橋智	—	福地	▽三塁打 なし
【育】 吉川, 吉田	—	倉方	▽二塁打 なし (城) 倉田 (育)
▽暴投 吉川1(育)	▽捕逸 なし		

## 【評】

長打力に勝る仙台育英が試合を支配した。1回裏、仙台育英は倉田、佐々木の連打で先制すると、四球後に4番和賀の大会第2号となる3点本塁打を放ち、初回に4点を先制した。対する仙台城南は先発笠松が2回以降立ち直り、4回から登板した高橋智も巧みな配球で仙台育英の攻撃を凌いだ。打線が仙台育英先発の吉川、7回から登板の吉田の前に2安打に抑え込まれ、得点機を演出することができなかった。試合が決したのは8回裏、無死1塁で途中出場の5番高田が大会第3号となる2点本塁打を放ち、8回コールド勝ちで仙台育英が準決勝進出を決めた。

準々決勝	仙台市民球場	2 時間 34 分	打安点盗犠四三残失併
石 巻 工 業	0 0 0 6 0 1	0 0 0	【石】 38 12 5 4 0 6 2 10 2 1
石 巻	0 1 0 0 2 2	1 0 0	【石】 29 7 6 8 4 10 6 10 4 1
( )			
(球) 山館 浩樹 (一) 菅原 幸 (二) 村上 大輔 (三) 新野 祥平			▽本塁打 なし
【石】 澁谷, 鈴木, 伊藤	—	早坂	▽三塁打 遠藤颯(工)
【石】 今野, 阿部慎, 木村颯, 熱海	—	白出, 齋藤	▽二塁打 なし (石) 倉田 (石)
▽暴投 今野1(石)	▽捕逸 なし		

## 【評】

石巻工業が石巻勢対決を7-6で制し、準決勝進出を決めた。石巻工業は4回に連打でチャンスをつかみ、バントの処理を焦った送球ミスや、相手投手の制球難に付け込んで一挙6得点と試合を優位に進めた。石巻も8盗塁と積極的な機動力を見せて食らいつき、1点差に迫る接戦に。石巻工業は3投手を繋ぎ、粘る石巻の追撃をかわした。攻撃では遠藤颯が4安打と大当たり、鈴木淳も2安打で攻撃を牽引。守っては、走者を出して苦しい展開になっても粘り強い守備で接戦を制する土台を支えた。石巻は足を絡めた多彩な攻めであと一歩まで迫ったが、序盤の大量失点が最後まで重くのしかかった。

準々決勝	仙台市民球場	2 時間 4 分	打安点盗犠四三残失併
東 北	0 0 0 0 0 0	0 0 0	【東】 30 6 0 0 1 2 6 6 1 0
東 陵	0 1 0 2 0 1	0 0 X	【東】 31 10 4 0 5 3 5 11 0 0
(10:05~10:38中断, 11:12~11:41中断)			
(球) 森山 宏則 (一) 浅野 卓也 (二) 山館 浩樹 (三) 佐々木祐一			▽本塁打 なし
【東】 堀江, 狩野, 川原	—	越田	▽三塁打 小山翔(東)
【東】 幸	—	地紙	▽二塁打 なし (東) 小山翔 (東)
▽暴投 狩野1(北)	▽捕逸 なし		

## 【評】

着実に得点を重ねた東陵高校が雨中の熱戦を制し、準決勝進出を決めた。東陵高校は2回、先頭の小山が2塁打で出塁、犠打で3塁まで送ると菊田の打球は打ち取られた打球であったが3塁手の野選を誘い先制する。4回にも小山の3塁打から、菊田のタイムヒットと、ショートゴロの間に2点の追加点を挙げた。6回にも内野安打と犠打などで進めたランナーを石渡の安打で返しダメを押した。投げては、先発の幸が2度の中断にも集中力を切らすことなく丁寧な投球で東北打線を完封した。東北高校は初回と8回にチャンスを作ったもののホームベースが遠く、2022年以來のベスト4進出を逃した。

準々決勝	仙台市民球場	1 時間 49 分	打安点盗犠四三残失併
利 府	0 0 0 0 0 0	0	【利】 26 7 0 1 0 2 4 7 1 0
聖 和 学 園	0 0 5 0 4 0	X	【聖】 22 7 8 1 3 5 1 3 0 1
( 7回コールド )			
(球) 佐々木 瞭太 (一) 野田 学 (二) 村上 大輔 (三) 鶴田 代志昭			▽本塁打 なし
【利】 佐藤堅, 佐藤奏, 佐藤伶	—	佐藤利	▽三塁打 なし
【聖】 高橋優	—	高階	▽二塁打 なし (利) 佐藤煌2, 高橋歩 (聖)
▽暴投 高橋優1(聖), 佐藤奏1(利)	▽捕逸 なし		

## 【評】

聖和学園、投打がかみ合い7回コールド勝ちで2大会連続3回目の準決勝進出を決めた。聖和学園は3回、3四死球で作った一死満塁のチャンスに三番佐々木、四番佐藤煌馬の長短打で3点、その後スクイズと相手投手の暴投で2点を追加し試合の主導権を掴んだ。さらに、5回にも4本の長短打で追加点を上げ、試合を決めた。利府高校は2回・7回の連打でつかんだ無死1・2塁のチャンスをものにできず、相手1年生投手高橋優心の前に散発7安打の無得点に抑えられ、ベスト4を前に悔しい敗戦となった。